

# 雪山の初級コース、赤城山を登る

(報告) T. K

◎山行期日 2018年2月4日

◎メンバー 会員4名

リーダーFさん運転の車は10時少し前「おの湖駐車場」に到着。Iさん御夫婦がにこやかに迎えてくれた。Iさん御夫婦は地元にお住まいの方で、Fさんとは旧知の間柄、私は初対面だがなかなかの健脚だそうで御夫婦で全国の山を歩いておられるとか、明るい感じの人だ。



バックは奥が黒檜山、右肩上がりの稜線が登山道（Iさん撮影）

Iさん御夫婦から「上の方は雪も深いが多くの人が歩いて固めているので、スノーシューは要らないだろう」との助言を頂きスノーシューは車においておくことにした。また「登山口までの道は一部凍結している個所もあるかもしれない」らしいと言うので、ここでアイゼンを履いた。

岩崎さんが差し入れてくれた饅頭・煎餅を持って、いざ出発。久しぶりにアイゼンを履いた。昨年のインド・ストックカンリ以来だ。アスファルトが「露呈」していない道路の端っこを歩く。湖面に沿って平坦な道、歩いた割には標高が変わらない。当然です。湖面は水平でした。

コースは、湖畔の登山口から東北東の黒檜山まで直登、そこから展望台まで往復、黒檜山に戻って駒ヶ岳まで南下、そこから西南の湖面に向かった下山。



湖畔の登山口から行き成り急登だ。先頭はSさん、何時もの通り足が早い。次いで小生、小生の次はNさん、乱れない。しんがりはFさんだ。

久しぶりの雪山、一步一步アイゼンでザクザクと雪の感触を楽しみながら歩く。寒さを心配したが全く問題なし、振り返れば大沼（おの）の湖面にワカサギ釣りのテントが見える。風もない。今日の山行は、ルンルン気分だ、と思ったのも束の間、歩き始めて30分もしないのに息切れし出した。どうしたんだろう、ここんとこ街歩きばかりの所為かそれとも歳の所為なのか、睡眠不足か栄養不足か、理由は何とでもつくがついてこないのは脚力のみ。時々深呼吸しながら前のSさんを追う。後ろのNさんから、「最近アイゼン着けて歩いていますか」と聞かれた。そうか、アイゼン引きずって歩いていたんだ。時々小石や岩にアイゼンが引っ掛かる金属音がする。前後の人からはそんな音は聞こえない。自分の足跡を振り返ってよく見るとアイゼンの爪が引っ掻いたような線が雪面に見える。

途中、猫岩で小休止する（11:00）。暑いので帽子をとって「手ぬぐい被り」に切り替える。汗っかきの小生の定番だ。Sさんが、「歩く速さはこの位で良いですか」と言うので、透かさず「一寸早い」と言ったら、後ろから更に透かさず「丁度良い」との声が飛んできた。

それでもSさん、少しスピードを下げてくれたようだ。つづら折りの道を登って行くと、犬が下りて来た。登りの我々に「はいっどうぞ、急がなくても良いですよ、ワン」と道を譲ってくれた。

5歳になるかならないかの女の子が登っている。靴には確りとアイゼンが装着されている。こんなちっちゃいアイゼンがあるのは知らなかった。坂道が一寸しんどかった様でぐずっていたが、この歳で雪山とは頼もしい限りだ。きっとエベレストに登頂するような大物になるに違いない。



富士山良く見えるビューポイントを経て、12:07 黒檜山に到着、展望台まで移動して昼食を摂る。

展望台からは四周の山々がくっきりと見える。絶景だが山の名前は富士山を除き分からない。知っていても言葉が出てこない。「あの尖ったのがアレ、その横がアレ」とアレアレを連発して終わり。



下山は、一旦黒檜山に戻りそこから駒ヶ岳を目指す。日が陰って来て急に寒くなってきた。リーダーの「防寒対策」との声に一同衣服を調整する。小生、「手ぬぐい被り」を耳覆いのついた帽子に取り換える。途中写真の様な雪庇の横を通り、見るからに滑りそうな鉄の階段を下りる。リーダーのFさんの足の運びを見ながら、14:20、全員無事「おの湖駐車場」に下山した。

《記録》 おの湖駐車場（標高 1360m）10:21—登山口 10:43—猫岩（1468m）11:00—富士山展望 11:25—12:07 黒檜山（1828M）12:50—駒ヶ岳（1685M）13:30—14:20 おの湖駐車場